

改善プログラムシート

施設の目指す姿

高齢者がいきいきと生活できるよう、ふれあい講座や健康相談などの行事を行い、更には、生きがい・居場所づくりに取り組み、健康づくりにも努めていきます。

※このシートは、2011年9月時点で考えられたものです。
予算等により変更となる場合もあります。

施設名

ふれあい桜館

担当部課名

いきいき健康部 高齢者福祉課

優先順位	改善内容	改善時期	改善の効果	改善が必要と考える背景や考え、実施方法
①	利用者や地域住民のアンケート調査を実施し、ふれあい館のあり方や必要性を見直します。	2013年3月	利用者の満足度が高まり、利用者増加にもつながります。	仕分け人からの評価の中で、高齢者全体からみてふれあい館利用者が少ないがその理由は何かがあげられました。その実施方法としては、利用者に加え地域住民へのアンケート調査により、未利用者や利用者の意向や行動を分析し、よりよいふれあい館のあり方や必要性を検討いたします。
②	①の調査をもとに、今後のサービスの方向性を策定します。	2013年3月	利用者の満足度が高まり、利用者増加にもつながります。	仕分け人からの評価の中で、時代の変化に応じて、利用者の登録者数を増やすためには何が必要かがあげられました。その実施方法として、「高齢社会総合計画」でのアンケートから高齢化社会全体のニーズや団塊世代のニーズ動向を分析し、高齢者の居場所づくりやサービスのあり方を検討いたします。
③	見学者を利用者として導きます。	2012年3月	利用者の増加につながる。	仕分け人からの評価の中で、利用者の登録者数を増やす具体策は何かがあげられました。その実施方法として、広報まちだ掲載の長寿号ルートについて、わかりやすいコメントを入れます。また、町内会、自治会、高齢者支援センター等を通じてPRし、近隣の病院やスーパーなどに毎月の行事表を置くなど、ふれあい館の存在を知っていただき積極的に利用をうながします。更に①の結果を基に新規利用者を開拓いたします。
④	受益者負担のあり方を検討します。	2013年3月	受益者負担の適正化	仕分け人からの評価の中で、高齢者全体から見ると利用者はごくわずかで、一部の市民だけが利益を得ているとの考えから受益者負担を考えるべきでないかがあげられました。ふれあい館は高齢者の健康や生きがいのための居場所であり憩いの場所としての役割をもっていますので、有料化により来館者が減らないよう考慮しつつ、「受益者負担の適正化に関する基本方針」に基づき、受益者負担のあり方の検討を開始します。
⑤	他館との連携を深め、より一層のサービス向上を図ります。	2012年3月	市内6館で同レベルのサービスを受けられる。	仕分け人からの評価の中で、各館にサービスのばらつきはないかがあげられました。その実施方法として、館長会議等で各館ごとのサービスにばらつきがないかを常に確認し、事業についての連携を深めていきます。